

1. 研究の名称

非粘液産生性TTF-1陽性肺腺癌と乳癌肺転移の細胞学的鑑別－形態計測、細胞所見および免疫化学による検討－

2. 研究の対象

2019 年 1 月 1 日から 2023 年 12 月 31 日までに当院へ呼吸器細胞診検体が提出された患者のうち、悪性または悪性疑いと判定され、原発臓器推定を目的として TTF-1 免疫染色が施行された症例。

原発性肺腺癌 11 症例 16 検体および乳癌肺転移 5 症例 10 検体

3. 研究期間

倫理審査委員会承認後から2027年12月31日まで（予定）

4. 試料・情報の利用及び提供を開始する予定日

2019 年 1 月 1 日から 2023 年 12 月 31 日

5. 研究目的

肺病変における原発性肺腺癌と乳癌肺転移の鑑別は、治療方針を決定するうえで重要です。原発臓器の推定には免疫組織化学染色が用いられていますが、細胞診検体では検体量が限られる場合があり十分な免疫染色を実施できないこともあります。そのため、細胞形態から原発臓器を推定するための指標を明らかにすることには臨床的意義があります。本研究では非粘液産生性 TTF-1 陽性原発性肺腺癌と乳癌肺転移を対象として、細胞形態および免疫化学所見を比較検討し、両者の鑑別に有用な形態学的指標を明らかにすることを目的としています。

6. 研究方法

病理診断データベースから悪性または悪性疑いと判定された症例のうち、原発臓器推定を目的として TTF-1 免疫染色が施行された症例を収集。パバニコロウ染色標本を用いて細胞形態を観察し評価します。核径と腫瘍細胞集塊は画像解析ソフトウェアを用いて測定します。また、既存のセルブロック標本等を用いて実施された ER、PgR、AR、GATA3、TRPS1、TTF-1、Napsin A の免疫化学染色についても評価し、得られたデータから統計学的解析を行い原発性肺腺癌と乳癌肺転移を比較検討します。

7. 研究に用いる試料・情報の種類

病理標本

8. 情報の保存・保護

この研究で得た情報は厳重に管理し学術目的のみで利用します。また得られた情報は統計として処理・解析しますので個人が特定されることはありません。本研究参加者以外の第三者に個人情報流出することはありません。患者さんのプライバシーは厳重に保護されることをお約束します。

10. 利益相反

本研究に関して、会社や個人との利益相反はありません。

11. 本研究への参加を希望されない場合

この研究にご自身のデータが使用されることを拒否される場合は、下記の問い合わせ先に連絡ください。
たとえ協力を拒否されても、不利益になることはありません。しかし、拒否のお申し出があった時点で、すでに研究結果が論文などで公表されていた場合には、研究結果を破棄できないことがあります。この場合でも個人が特定されることはありませんので個人情報保護されます。

12. お問い合わせ先

住 所：〒651-0072 神戸市中央区脇浜町 1-4-47

電 話：078-261-6711

担当者：病理室 小林建太